



NO. 016

FAS通信

平成16年8月号

株式会社福地建装

上磯町中野通321番地

TEL0138-73-5558

お見舞い申し上げます

初めに、新潟・福井の集中豪雨で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。連日、テレビや新聞等マスコミで報道されておりますが、自然の脅威は人間の想像をはるかに超えた力で全てのものを破壊していきます。昔は、大雨が降り川が氾濫すれば、肥えた土を運んでくれるという恵みもありましたが、現代の生活では非常にありがたくないことです。家全体の隙間という隙間に多量に入り込んできた水や土により、文明の利器である家電製品や車も、一瞬のうちに粗大ごみと化してしまいました。

本来、家とは雨露をしのげればいい、外的から命を守ればいいという目的で建てられてきました。そして、文明が進化するにつれて、財産としての家づくりになり、より快適で丈夫な家にしようとは何千年も英知を傾け工夫を凝らしてきました。そして、「快適で住み心地の良い」住宅が実現しました。しかし、自然の脅威は人の考えをあざ笑うかのごとく、本来守るべき生命や財産を飲み込んでしまうのです。

千年に一度、何百年に一度、何十年に一度、といわれる災害を考え、家づくりをする人は非常に少ないと思います。それは、震災や災害がおこる確率は非常に低く、自分には関係ないような気になってしまうからです。家づくりを考える時、建てる事だけに主眼をおくのではなく、長い年月住み続けるのだという事を主眼においた家づくりが必要なことだと考えます。

水がかかる部分は木が腐りやすくなります

木材は、含水量が多くなると、腐りやすくなる特徴があります。その腐った部分には、不朽菌が繁殖し、カビやダニ、白蟻などの虫が発生しやすくなります。それだけならいいのですが、少しずつ年月をかけて家を蝕んでまいります。そして終いには、家の性能・機能を保持できなくなり、建て替えなければならぬほどの状態となってしまいます。

まるで人間の成人病のようです。では、なぜ古い歴史をもった木造の建造物が（お寺や神社）何百年も建っていることができるのでしょうか。それは、水や湿気が入ってきても、流通空気にさらされる事によって、家を腐らせる原因のひとつである水分を停滞させない仕組みになっているからです。近年建てられている住宅は、どうでしょうか。壁の中の構造体や土台は、流通空気に触れることができるのでしょうか。構造体の腐食や白蟻など虫の発生を抑える、防腐剤や防蟻材も最近では素晴らしいものも出てまいりましたが、薬品の効果は、何十年も持つものではありませんし、常時水分を含んだ状態ならば、その効果は、低減してしまいます。また、何十年も経過して、壁を剥がして薬剤を塗りなおすことは、ほとんど不可能です。ならば、初めから、何十年も住み続ける事を念頭において薬剤を塗らなくてもよい工夫がされていればよいのです。

人間の手が届かない壁の中の構造体や土台に常時流通空気がふれ、万が一湿気が入ったとしても、空気循環をさせることにより、水分の除去を行ない不朽菌や白蟻の発生を防ぐことのできる仕組みでつくられているのが「ファースの家」なのです。

夏の知恵袋

生ゴミ袋の悪臭には

暑くなってくると気になるのが生ゴミの臭い。

こんな時には、お酢を少量かけてみてください。それだけで、ビックリする位臭いが消えます。もちろん、最初から袋にお酢を馴染ませておいても構いません。

こんなに簡単に臭いが消えるのには、お酢の殺菌作用が大きく関わっています。生ゴミの臭いは、腐敗が原因で発生します。そして腐敗は微生物（腐敗菌など）によって促進されます。ですから、お酢で殺菌することによって微生物を撃退し、臭いが消えるのです。

但し、この方法は応急処置ですので長時間の消臭には効果がありませんのでご注意ください。

他にも銅には消臭効果があるので、流しの三角コーナーを銅製のものにすると臭いが軽減します。